

2. 「知の杜」「人の杜」で学ぶということ

「地域」という概念は歴史的には極めて新しいものです。戦前には「郷土」「故郷」が主流でしたが、戦後は「地方」、現在は「地域」がよく用いられるようになりました。「地域」は中央に対する「地方」という意味ではありません。地域とはみなさんを中心とした空間です。地域総合学部(Faculty of Regional Studies=Forest(フォレスト:杜))は、そのような地域に焦点を当て、取り組むべき課題にあわせて地域のスケールを大小様々に変えながら、多様な分野の人々と協働して一人ひとりが生きやすい「よりよい地域」の実現を目指しています。

地域総合学部は2つの学科から構成され、それぞれが異なるアプローチで「よりよい地域」の実現に寄与できるような人材育成に取り組みます。

地域コミュニティ学科では、初めに3つの領域「社会と産業領域」「健康と福祉領域」「人と自然領域」の全体を概観し、その後、みなさんが最も関心を持った分野の学びを深めていきます。1年次には、基礎論や基礎実習による体験的なフィールドワークを通して、4年間の学びに必要な基本的な知識とスキルを身につけます。2年次には専門的な知識を身につける講義を履修するとともに、実習科目を通して、より本格的な地域調査の技法を学びます。3年次には専門性の高い講義科目で興味のある分野についての知識を深め、「地域コミュニティ学習Ⅰ・Ⅱ」において地域の課題を分析するための実践的な能力を養います。そして、4年次には、4年間の学びの集大成として自ら地域に関する課題を設定し、必修科目である「総合研究Ⅰ・Ⅱ」に取り組みます。海外に関心のある人は「海外地域実習」、GIS(地理情報システム)のスキルを高めたい人は「GIS実習」というように、それぞれの興味関心に応じて学びを深めることも可能です。

政策デザイン学科では、政治学・経済学・社会学を学問的基礎としつつ、地域の課題を解決し、よりよい社会をつくるための「政策提案力」と「協働する力」を学びます。人口減少・少子高齢化が進む現代、よりよい地域社会をつくるための「政策」は、国や地方自治体に任せておけばよいというものではありません。行政だけでなく、企業・NPO法人などの事業体や、地域で暮らす人びとの参画と連携が不可欠です(公・共・私の連携)。政策デザイン学科の学びは、こうした考え方のもと、「公共行政」「経済産業」「市民社会」の3領域からなる領域専門科目を中心に構成されています。学科教員の専門分野は幅広く(先に挙げたほか社会福祉学・経営学・文化人類学の教員がいます)、多角的アプローチを学びます。また、1年次は少人数ゼミや入門的な科目で学びの基礎を固めます。2・3年次には国内外での学外実習に参加し学びを深めます。3・4年次では、より専門的なゼミに入り自分の研究テーマを探究します。

最後に、みなさんは大学を卒業したあと、どこで何をしていますのでしょうか。または、どのようなことをしたいと考えますか。社会人になると時間に追われることが多くなります。一方、大学生には自由に使える時間がたくさんあります。しかも、その自由な時間は、とてもゆったりとした速度で流れます。そのようなとき、時間には限りがあることを忘れてしまい、ただ無為に過ごしてしまいがちです。私たちは有限の時間の中で生きています。しかし、「今」という時間は、今この瞬間にのみ存在します。それは、ただ過ぎ去るばかりで二度と戻って来ることはありません。そのため、現在を思い描いた未来へとつなぐには、これから始まる「今」をどのようにして過ごすのか、そのことがとても大切になってきます。

地域総合学部では学生と教員の距離が近く、教員はみなさんを温かく迎え入れ、情熱を持って指導に当たり、そして共に学びます。あとは、みなさんのやる気次第です。何かについて知りたい、学びたいという熱い思い、または、強く関心を抱く話題を遠慮せずに、教員に直接ぶつけてください。フォレストは、自分自身と向き合い、みなさんが学びたいことを見つけて深めることができる「知の杜」「人の杜」なのです。



地域総合学部長

伊鹿倉 正 司